第5節 英語科における配慮事項

1 英語の点字表記の概要

(1) 英語点字とは

点字のアルファベットは、後掲の表1のように、

a 🗄 b 🗄 c 🚉 d 🚉 e 🚉 f 🚉 ……

となっている。これは点字の五十音の「あ い う る ら え……」と同形なので、日本語点字の中では外字符 ⋮ を前置して、

なお、実際の英語の教科書などでは、英語の部分と日本語の部分が混 じっている。その書き分け方については本項の(10)で述べる。

小・中・高等部の児童生徒に現在指導されている英語点字は、UEB(統一英語点字)と呼ばれ、英語圏で共通の表記体系である。本書では UEB のごく入門的な事柄しか述べていない。そのため実際に指導に当たる際は、本項の(12)に挙げる参考文献等により、UEB に対する理解を深められたい。

(2) グレード1とグレード2

英語点字には、グレード1(grade 1)とグレード2(grade 2)という二つの表記法がある(「1級」、「2級」と呼ばれることもある)。

グレード1は、墨字に対応するアルファベット、数字、句読符類と、点字独特の大文字符や書体の指示符などで構成される。いわば、初歩段階の英語点字である。小学部第5学年から中学部第1学年までの英語の授業では、グレード1の読み書きを指導する。また、小・中・高等部の英語科以外の教科書等においては、英語の語句や固有名詞などは原則としてグレード1で表記される。グレード1の表記法については、本項の(3)~(5)にてその概略を知ることができる。

グレード2は、26字のアルファベットに加え、綴りを縮めて少ないマ

ス数で書き表すための 182 の縮約 (contraction) を使用する。これにより、グレード 2 はグレード 1 に比べ紙面が約 30%節約され、読み書きともに効率的に行うことができる。英米の点字図書・資料はほとんどがグレード 2 で書かれており、グレード 2 が英語点字のスタンダードといえる。次に、同じ言葉をグレード 1 とグレード 2 で書いてみる。

Learn from yesterday (昨日から学べ)

「グレード1]

Learn from yesterday \vdots

「グレード2]

縮約については、本項の(6)を参照されたい。

著作教科書は、中学部第2学年から第3学年にかけて、縮約を7段階に分けて順次導入するよう編集されている。縮約は数が多く、習得にはある程度の英語の知識と語彙が必要なため、段階を追って学習する構成となっている。高等部段階の英語の読みと書きの学習には、グレード2の習得が不可欠といっても過言ではない。

なお、英語科以外の教科書中に出てくる英語の語句や固有名詞などの英語表記については、原則としてグレード1によるが、高等部の教科書については、教材の目的によってはグレード2で書かれることもある。

(3) アルファベットと大文字を示す記号

英語のアルファベット (alphabet) を表 8-5-1 に示す。

表 8-5-1 アルファベット

•- 	• <u>-</u>	••	• • - • 	• - - • 	• <u>•</u> -	••	<u>:</u>		- <u>•</u>	
a	b	С	d	е	f	g	h	i	j	
• - • -	• - • - • -	• • • -	• • - • • -	• - • - • -	• • • - • -	• • • • • • • • • • • • • • • • • • •	- -	 	-• •-	
k	1	m	n	0	p	q	r	S	t	
•- ••	• - • -	- • • • - •	• • • •	• • • •	•- -•					
u	V	W	X	У	Z					

1語はひと続きに書き、語と語の間は一マスあける。

大文字を示す記号を表 8-5-2 に示す。

表 8-5-2 大文字を示す記号

大文字符 (capitals prefix)

大文字単語符 (capitals word indicator)

大文字パッセージ符 (capitals passage indicator)

大文字終止符 (capitals terminator)

点字のアルファベットは、前に記号が何も付かなければ小文字、大文字 符が前置されればそれに続く1文字が大文字となる。

NEW YORK (=====)

ハイフンで結ばれた複合語やアポストロフィの入った語が全て大文字の場合は、ハイフンやアポストロフィの後に大文字符または大文字単語符が必要である。

FIR-TREE (モミの木)

BETTY'S HAT (ベティーの帽子)

全部大文字の語が3語以上続く場合は、最初の語に大文字パッセージ符を前置し、終わりを大文字終止符で示す。このとき、マスあけから次のマスあけまでを1語と数える。

THE SOUND OF MUSIC (サウンド・オブ・ミュージック)

(4) 数字

-

数字とそれに関連する記号を表 8-5-3 に示す。数字は日本語点字と同じであるが、小数点と桁区切りのコンマは日本語点字とは異なる。

表 8-5-3 数字と数字に関連する記号

1 2 3 4 5 6 7 8 9 0

∴ 小数点、ピリオド (period)

● , 桁区切りのコンマ (comma)

数符 (numeric prefix)

2023

3.14 🚼 🖽 🗓 🗄 (日本語点字では 🗒 🚉 🖼 🛂)

数字の直後に小文字の $a \sim j$ が続く場合は、そのままでは数字に読めてしまうので、間に 1 級記号符(grade 1 symbol indicator) き を挟む。数字の直後に小文字の $k \sim z$ が続く場合、あるいはマスあけや大文字符などの記号が入る場合は、数字とは読めないので 1 級記号符は不要である。

(5) 句読符

句読符 (punctuation) のうち主なものを表 8-5-4 に示す。疑問符や丸カッコのように、日本語と英語で墨字の記号は共通でも、点字の記号が異なるものがある。

表 8-5-4 句読符

```
•-
        コンマ (comma)
•-
       ; セミコロン
••
      : コロン (colon)
       . ピリオド (period)
•••
      ! 感嘆符 (exclamation mark)
•••
       ? 疑問符 (question mark)
      'アポストロフィ (apostrophe)
--
       - ハイフン (hyphen)
== ==
      ー ダッシュ (dash)
...エリプシス (ellipsis)
---
      / スラッシュ (slash)
== ==
      ( 丸カッコ (parenthesis)
-- --
-- --
      「 角カッコ (bracket)
-<u>·</u> -<u>·</u>
         ダブルコーテーションマーク (double quotation mark)
--
-- --
       'シングルコーテーションマーク (single quotation mark)
== ==
```

句読符を書く位置と順序、前後のスペースのあけ方は、原則として墨字 どおりとする。日本語点字の句点の後はニマスあけであるが、英語点字の ピリオドの後は一マスあけである。段落の始めは、英語でも日本語と同様 ニマス下げる。

Long, long ago, there was a fox. He lived in a hole. (むかしむかし、1匹のキツネがおりました。彼は洞穴に住んでいました。)

	= = =		!! •		• - • - • -	• - • -		<u> </u>]	::	• - • -	•=		- • • -	• <u>-</u>	• <u>-</u> •	• <u>-</u>	• <u>-</u>		- - -	• - = =	: □
<u>:</u> [] :		• • -•		•	• - - •		- - -	:	<u>-</u>	- • - •		•=	• • • •		• - 		• - • •	• - • -	• - • -	• - - •		
"No,"	sai	d Pa	au1.																			
(「いい	え」	とオ	९ − ,	ルに	は言	<u> </u>	た	. 。)														
		• 	•= •		-• •-	• - 	-• (<u> </u>] =	• - • -	•-	•- 	- -	<u></u>								

(6) 縮約

縮約(contraction)とは、英語の綴りを縮めて少ないマス数で書くための点字記号の総称である。英語点字のスタンダードであるグレード2において、縮約は重要な役割を果たす。

UEB には 182 の縮約があり、それらは点字の形と働きによって次の 9 つに分類される。

縮約の分類

- 1 アルファベット縮約語¹⁾ (alphabetic wordsign) 23 個
- 2 強縮約語²⁾ (strong wordsign) 6個
- 3 強縮約³⁾ (strong contraction) 5個
- 4 強縮約部⁴⁾ (strong groupsign) 12個
- 5 下がり縮約語⁵⁾ (lower wordsign) 6個
- 6 下がり縮約部 (lower groupsign) 10 個
- 7 頭字縮約⁶⁾ (initial-letter contraction) 33 個
- 8 末字縮約部⁷⁾(final-letter contraction)12個
- 9 短形語⁸⁾ (shortform) 75 個

《注》

- 1) 縮約語 (しゅくやくご) (wordsign): 語全体を表す点字記号。
- 2)強(きょう)(strong):点字の形に関する用語。マスの上の点(①④の点)と下の点(③⑥の点)の両方があり、かつ、マスの左の点(①② ③の点)と右の点(④⑤⑥の点)の両方があることを、UEB では「強い形」と定義している。形がしっかりしていて読み間違いがないというような意味。
- 3)縮約(しゅくやく)(contraction):語全体も語の部分となる文字列 も表す点字記号。なお広義には、「縮約語」、「縮約部」、「縮約」及び 「短形語」の4類型を一括して、「縮約」と呼ぶこともある。

- 4) 縮約部 (しゅくやくぶ) (groupsign): 語の部分となる文字列を表す 点字記号。
- 5) 下がり(さがり)(lower): 点字の形に関する用語。①の点と④の点のいずれも含まないという意味。
- 6) 頭字(とうじ) (initial-letter): 語の始めの文字から作られた。
- 7) 末字(まつじ)(final-letter): 語の終わりの文字から作られた。
- 8) 短形語 (たんけいご) (shortform): 語頭などの綴りの一部を取り出したもので、語を表す点字記号。「省略形」と呼ばれることもある。

中学部英語の著作教科書では、縮約を第2学年から第3学年にかけて、次のIからVIIの7段階に分けて順次学習するよう編集されている。この7段階は、前述のUEBの縮約の9分類とは、分類の仕方や提示順序が少し異なっている。これは、学習・指導のしやすさ、縮約の出現頻度などを考慮し、学習段階を編成しているためである。

I ーマスで語全体を表す縮約

表 8-5-5 ーマスで語全体を表す縮約

• - • - 	but	: -	people
• • 	can	• •	quite
• • - • 	do	• - • • • -	rather
• - - •	every	-• •- •-	SO
• - 	from	- • • • • -	that
::	go	•- ••	us
<u>:</u> -	have	• - • -	very
<u>-</u>	just	- • • •	wi11
• - • -	knowledge	• • • • • • • • • • • • • • • • • • •	it
- - -	like		you
• • • -	more	• <u>-</u>	as
• • - • • -	not		

(b) 強縮約 (1語を表す用法)

()	••••		i
	-	and	
		for	
	• - • •	of	
	- • • -	the	
		with	
(c)	強縮約語	;	
	• - - •	child	
		shall	
	- • - •	this	
	 	which	
	• - • •	out	
	- • 	still	
Y	== == == ==	wim. (あなたは泳 - - - □ : : : : : : : : : : : : : : : : : :	げます。)
_	(b)の例]		
Т		an and the Sea (
г /			
	[c]の例]		
1		d is hungry. (Z	
	= :		• • • • • • • • • • • • • • • • • • •

- 292 -

なお、a, i, o を除く単独のアルファベットは、アルファベット縮約語

と区別するため、1級記号符 章 を前置する。

Q and A (質問と答え) e-mail (電子メール) -- -- -- -- -- --

Ⅱ ニマスで1語全体又は部分を表す縮約

表 8-5-6 頭字縮約

•• -• -•	day	- <u>-</u> - <u>-</u>	there
 	ever	== ==	character
<u>•</u> -	father	- <u>-</u> - • •	through
	here	= <u></u> = <u></u>	where
<u></u>	know	- <u>-</u> -	ought
	lord		
•• -•	mother		
•• -• -•	name		
 	one		
• • -• •-	part		
• • -• • •	question		
•- -• •-	right		
	some		
• -• •-	time		
<u></u>	under		
	work		
-:	young		
の点と組み	*合わせるもの		
-• •- -• ••	upon		these
	word	- • • • • • • • • • • • • • • • • • • •	those
		- .	whose

第8章 教科学習における指導上の配慮

④⑤⑥の点と組み	4合わせるもの		
-• •• -• -=	cannot		their
-• •- -• •-	had		
-• •• -• -• •-	many		
-• -• -• •- -• •-	spirit		
	world		

You cannot smoke here. (ここではタバコを吸えません。)

I sometimes go there alone.

(私はときどき一人でそこへ行きます。)

Ⅲ ーマス又はニマスで語の部分を表す縮約

表 8-5-7 ーマス又は二マスで語の部分を表す縮約

(a) 強縮約 (語の一部を表す用法) and for of the with

(b) 強縮約部 - • - -• -- chst • -• -• --• gh ar sh 語頭には使えないもの - • - • th --• -- • ing wh <u>:</u> ed :: er :ou - • - -OW (c) 下がり縮約部 (語のどの部分にも用いるもの) <u>--</u> en -in (d) 末字縮約部 (語頭には使えない) ⑤⑥の点と組み合わせるもの ④⑥の点と組み合わせるもの ound -- -ence -• •--- -• -- :: ance ong -• •• -- -• -- -fu1 sion less -- ---- :: tion ount -- -ness -- -ment -- ity

[(a)の例]

soft candy (ソフトキャンディー)

「(b)の例]

high school (高校)

方

のり

three sisters (3人姉妹)	
She's singing Jingle Bells. (彼女はジングルベルを歌っている。)	
[(c)の例]	
He went to India. (彼はインドへ行った。)	
[(d)の例]	
I placed the television set on the counter carefully.	
(私は注意深くテレビをカウンターの上に置いた。)	
二通り以上の縮約の使い方が可能な場合は、原則としてマス数が少ない	
を選択する。	
they (彼らは/彼女らは) ○ 👬 🗎 × 🚆 🚉 👪	
science (科学) 〇 琵琶琶琶 🏗 × 琵琶琶 琵琶琶	
二通り以上の縮約の使い方が可能で、マス数が同じ場合は、強縮約を他	
種類の縮約より優先する。また、①④の点を含む縮約を下がり縮約部よ	
優先する。	
brother (兄弟) 🔘 🗄 🖺 🗓 🗓 × 🖺 🗓 🗒 🗓	
then (その時) 〇 🎎 💢 💢 💢	
複合語の要素をまたいで縮約を使うことはできない。	
homeroom (ホームルーム) 〇 × ※ ×	
lighthouse (灯台) 〇 琶琵琶琶琶 × 琶琵琶琶	

Ⅳ 短形語 1

表 8-5-8 短形語 1

日知のマー	コナ母」マダフナル吸力:	7 1 0	
	スを残して後ろを省略する	!	
	about		below
=====	according	\$= -	beneath
== ==	after	= ==	beside
	again		between
== ==	also	 - -	beyond
	because	 	blind
<u></u>	before	- <u>-</u> -	either
<u></u>	behind	• • • - • - • - • - • -	friend
骨組みだけ	を残して、母音などを省■	各するもの	
 	children	 	such
	could	- • • • • • • • • • • • • • • • • • • •	today
• • - · · · · · · · · · · · · · · ·	first	- • • • • · · · · · · · · · · · · · · ·	tomorrow
• • • • • • • • • • • • • • • • • • •	good		tonight
• <u>•</u> ••	him		would
 	its	• • • - - • • -	your
 	letter	 	above
: := :=	little	 	afternoon
•• •- 	much	 	afterward
• - • 	must	• 	against
• • • • • • • • • • • • • • • • • • •	paid	•- •- •- •- •- •-	braille
## 	quick		great
	said		together
	should		Ü
-•	2110414		

Tom told him a good news.

(トムは彼に良い知らせを伝えた。)

第8章 教科学習における指導上の配慮

短形語は、一定の条件で派生語や複合語にも使用する。

braille letters from her boyfriend

(彼女のボーイフレンドからの点字の手紙)

なお、短形語と同じ文字列の略称などは、短形語と区別するため、1級記号符 ➡ を前置する。

CD (コンパクトディスク) 🗒 🗒 🗒 😫

Ⅴ 短形語 2

表 8-5-9 短形語 2

 	across	•- •- •• ••	although
 	almost	 	immediate
 	already	•• •- •• •	necessary
 	always	•• •- •- •	neither
 	altogether		perhaps
-self, —sel	lves が付く語の一部を	を省略するもの	
-self, —sel		を省略するもの	oneself
-self, —sel	lves が付く語の一部を myself yourself	を省略するもの	oneself thyself
-self, —sel	myself	を省略するもの == == == == == == == ================	thyself
-self, —sel	myself yourself	 	thyself ourselves

e を省いて現在分詞を作る語の一部を省略するもの conceive - - - perceive conceiving - - - perceiving -- -- -deceive -- -receive deceiving ---receiving declare --rejoice declaring rejoicing

Perhaps her help is not necessary.

(たぶん彼女の助けは必要ない。)

He always cooks for himself.

(彼はいつも自炊している。)

VI 下がり記号で語全体を表す縮約

表 8-5-10 下がり縮約語

	be
::	were
 	his
	was
 	enough
 	in

Were you in your room?

(あなたはあなたの部屋にいましたか?)

be, were, his, was の下がり縮約語は、下がりの句読符と接することができない。

No one knew who he was.

(彼がだれだか、だれも知らなかった。)

enough, in の下がり縮約語が下がりの句読符と接する場合、①④の点を含む文字または記号とつながっていれば縮約語を使用してよいが、そうでなければ縮約語を使用することができない。

"In Japan."

(「日本では。」)

His smartphone was—or rather is—in his locker.

(彼のスマートフォンは彼のロッカーの中にあったというよりも、むしろロッカーの中にある。)

Ⅶ 下がり記号で語の部分を表す縮約

表 8-5-11 下がり縮約部

「(a)の例]

When will the speech contest begin?

(弁論大会はいつ始まりますか?)

「(b)の例]

He plays on a soccer team.

(彼はサッカーチームでプレーしている。)

be, con, disの下がり縮約部は、語頭の be, con, disで1音節を形成している場合に使用する。

「縮約部を使用する〕

believe (信じる) 🗄 🗄 🚉 🚉

convenient (便利な) 🏥 🗒 🗒 🗒

display (表示)

「縮約部を使用しない〕

best (最も良い) ***= *= *=**

disc (ディスク) **!! !!** !!

(7) 書体を示す記号

墨字の印刷物にはさまざまな書体が使われるが、とりわけ英文においては、強調する語句や外国語(英語以外の言葉)などを書き表すため、イタリック体(斜めの書体)が重要な役割を果たす。UEB では、イタリック体を示すのに表 8-5-12 に掲げる記号を用いる。

表 8-5-12 イタリック体を示す記号

🛂 🖅 イタリック単語符(italic word indicator)

➡ イタリックパッセージ符(italic passage indicator)

□ イタリック終止符 (italic terminator)

イタリック体の語には、イタリック単語符を前置する

I like manga.

(私は漫画が好きです。)

イタリック体の語が3語以上続くときは、最初の語にイタリックパッセージ符を前置し、終わりをイタリック終止符で示す。このとき、マスあ

けから次のマスあけまでを1語と数える。

Stand by Me

(スタンド・バイ・ミー)

なお、イタリック体を示す記号は英語点字の初学者にはやや煩雑であるため、英語点字の句読符の読み書きに十分習熟していない中学部第2学年までは、記号を省略するか、イタリック体の語句をダブルコーテーションマーク ま~ こ で囲むなどして、シンプルな表現になるよう配慮するのが望ましい。

(8) 貨幣単位などの記号

貨幣単位などの記号のうち主なものを表 8-5-13 に示す。

表 8-5-13 貨幣単位などの記号

```
-• •<u>-</u>
         € ユーロ (euro)
        £ ポンド (pound)
-- --
         $ ドル (dollar)
-- --
        ¥ 円 (yen)
        0
度 (degree)
== ==
           パーセント (percent)
        %
== ==
           アスタリスク (asterisk)
        *
-- :-
         & アンパサンド (ampersand)
-• •-
         @ アットマーク (commercial at)
== ==
         ~~ チルダ、波形ダッシュ (tilde, swung dash)
-- --
            アンダーバー (low line)
= ==
         ・ ビュレット (bullet)
```

(9) 修飾符

フランス語のアクセントやドイツ語の変母音など、アルファベットに添える種々の記号を、修飾符 (modifier) と総称する。英文中でも、外国語

由来の言葉を書き表すのに必要となることがある。UEB の修飾符のうち主なものを表 8-5-14 に示す。

表 8-5-14 修飾符

デニー アキュートアクセント (アクサンテギュ) (acute accent)

→ グラーブアクセント (アクサングラーブ) (grave accent)

望望 ↑ サーカムフレックス (アクサンシルコンフレックス)

(circumflex)

□ ヴムラウト (トレマ) (diaeresis)

モニュー セディラ (セディーユ) (cedilla)

なお、修飾符は、ニマス目が縮約と同形で(例えばアキュートアクセント ⋮ ⋮ 、グラーブアクセント ⋮ ⋮ のニマス目はそれぞれ強縮約部 st, ch と同じ形)、英語点字の初学者にとってはかなり紛らわしい記号といえる。よって、縮約を一通り学ぶ中学部第 3 学年までは、導入には慎重を期すのが望ましい。

(10) 外字符と外国語引用符

日本語中にアルファベットを表す場合は、表 8-5-15 に掲げる記号を用いる (これらは日本点字委員会が定める記号である)。

表 8-5-15 外字符と外国語引用符

外字符 外字符

€ ~ ● 外国語引用符

日本語中の文字として用いるアルファベットには、外字符を前置する。 略称など2文字以上の場合でも、一つの外字符に続けて書き表す。

語尾のyをiに変えてesを付ける。

重大文字符(UEBの大文字単語符に当たる)を前置する。縮約や修飾符の付いた文字を外字符で書くことはできない。

SDGs == == == == == == ==

日本語中に英語の語句や文を書き表すときは、原則としてその前と後ろを外国語引用符で囲む。外国語引用符の内側は、UEB の表記規則に従い、グレード2の場合は縮約を用いる。

newの反意語は old。

経済学 (economics) を学んだ。

sandwich(es) サンドイッチ

「グレード1]

「グレード2]

日本語中であっても、英語の語句や文が改行して書かれていれば、原則として外国語引用符で囲む必要はない。

I like traveling.

私は旅行が好きです。

「グレード1]

[グレード2]

同じ段落内に英語と日本語が混在する場合、日本語部分をカッコ こ~ で囲んで書き表す方法もある。これは UEB が定める記号ではなく、日本点字委員会が日本独自の表記として認めたものである(『日本点字表記法 2018 年版』 1 編 4 章 6 節 3. (1))。

I am in Nara. 私は奈良にいます。

グ	レ	_	ド	1]																			
		- <u>-</u>	- • • -		::	:	<u>:</u>	==	• • • • •	== 8		= ==] ;;	<u>-</u> -	• - • -	• - • •	 		• - • -	• - - •	= [
• - • -	• - • •	- • - •	••	<u></u>																			
グ	レ	_	ド	2]																			
		==	- - -	_ = :	•••	<u>.</u> [] =		-• •-	•= 5	•		:: -		•- ••	 		• - • -	• <u>-</u> •	• - • - • -			
• - • -	• - - •	-:	- <u>-</u>	<u></u>																			

(11) 発音記号

点字の発音記号(万国音標文字)を表 8-5-16 に示す。これは、Daniel Jones 式の記号を元に 1933 年にイギリスで定められた点字記号である (UEB の記号ではない)。『日本点字表記法 2018 年版』 2 編Ⅲ. 4. に一覧が掲載されており、点字教科書でもこの点字記号が用いられている。

表 8-5-16 発音記号

$ar{ar{ar{ar{ar{ar{ar{ar{ar{ar{$	[]	発音記号符				
<u>•</u> •	ː	長音符				
- • - •	-	第1ストレス符				
- <u>•</u>	`	第2ストレス符				
母音						
(英字と同形の文字)				(その他の文字)		
•- 	a		•	- - •	α	
• - - • 	е		•	• •	æ	
- • • - 	i		-	•	Λ	
• - - • • -	О		-	•	3	
• - • •	u		<u> </u>	- - •	Э	
			•	- -	Э	
			-	• - -	I	
				-	U	
			•			

子音					
(英	(英字と同形の文字)		(その他の文字)		
• - • - 	b	• • • • • • • • • • • • • • • • • • •	ŋ		
- • - •	d	- • - •	θ		
• • • - 	f		9		
::	g	 	\int		
• •	h		3		
-• 	j				
• - • -	k				
• - • - • -	1				
• • • -	m				
- • - • • -	n				
• • • - • -	р				
• - • • • -	r				
-• •- •-	S				
- • • -	t				
• - • -	V				
- • - •	W				
 	Z				

発音記号の前後ろは発音記号符で囲む。第1ストレス符・第2ストレス 符は、該当する母音に前置する。

[dgæpəníːz] (Japanese の発音)

斜体の文字には \vdots を前置する。 \vdots は次の1文字が斜体であることを示す。

[kaːr] (car の発音)

発音記号中の () は ┇ ∼┇ で表す。

[bræn(d)njú:] (brand-new の発音)

英単語と発音記号を並べて書く場合は、原則として英単語を外国語引用 符で囲む。 apple [**æpl**]

なお、辞書や単語集では、見出し語を囲む外国語引用符は省略することが多い。これは、行頭の見出し語を検索しやすくするためである。

apple [**æpl**] 〔名詞〕りんご

(12) 英語点字の動向と参考文献

現在英米をはじめとする英語圏各国で使用されている英語点字は、UEB (Unified English Braille、統一英語点字)と呼ばれる。UEB が使われるようになったのは比較的新しく、イギリス、アメリカでの本格導入は2016 年からである。それまで各国の英語点字表記法の間には僅かながら差異が見られたが、UEBにより統一が図られた。

日本では長らくアメリカ式の英語点字 (EBAE: English Braille American Edition)が主流であった。しかし、英語圏の動向を踏まえ、英語の教科書・試験問題等については、日本点字委員会の指針に基づいて、次のように UEB の導入が進められてきた。

- ・中学校の教科書等-2016年度から
- ・高等学校の教科書等-2017年度から学年進行で
- ・大学入学試験-2020年4月入学の試験から

著作教科書の中学部英語は 2016 (平成 28) 年度用から UEB に切り替えられ、同小学部英語は初めて発行された 2020 (令和 2) 年度用から UEB が使用されている。

一方、これまでに点訳された英語の読み物や学習参考書の中には、EBAE (旧表記法)で書かれたものが多数含まれている。新旧の表記法を比べると、EBAE から UEB に移行するに当たり、縮約が9つ廃止され、カッコ類など形が大きく変わった記号もいくつかある。したがって、既存の点訳資料を教材等として活用する際は、UEB 表記であるかの確認が重要である。

UEBの表記規則については、次の資料が参考となる。

The Rules of Unified English Braille Second Edition 2013, International Council on English Braille (ICEB のウェブサイトより 2013 年以降の規則の追加・修正も含めダウンロード可 https://iceb.org)

『全訳 UEB 規則集』筑波技術大学、2018 (同大学リポジトリよりダウンロード可 http://hdl.handle.net/10460/00002177)

『新版 UEB ベーシックマスター 英語点訳の基礎』福井哲也著、2021、 日本ライトハウス (http://www.lighthouse.or.jp/tecti/)

2 指導上の配慮事項

(1) 英語点字の初期指導

墨字では、仮名や漢字とアルファベットの字形が全く異なるのに対して、点字では、日本語も英語も同じ6点の組合わせで表現するため、日本語と英語の違いを直観的に捉えることが難しい。また、視覚障害のない児童は、学校以外の場所でも、看板や商品のパッケージ、テレビの画面など、様々な場面で日常的にアルファベットや英単語を目にすることができるのに対して、盲児がそれらに出会う機会は非常に少ない。そのため、英語点字の導入期においては、点字教科書に加えて、自作のプリントや点字の単語カード、マグネット式のカレンダーや時間割表などの補助教材を適宜活用しながら、英語点字に日常的に触れられる環境を整え、児童が興味を持って楽しく学習を進められるように工夫する必要がある。

一方、点字のアルファベットの $a \sim j$ は数字の $1 \sim 0$ の字形に対応しており、また、 $a \sim j$ に点字の 3 の点を加えると $k \sim t$ になるというように、規則的で覚えやすい側面もある。

ただし、英語点字では記号類の表記が日本語点字のそれらと一部異なっている(例えば句読符のうち疑問符は、日本語点字では き と書くが、UEB では と書く)。また、大文字やイタリック体などはアルファベットに記号を付加して表現するなど、点字独特の規則もいくつか存在する。これらは、英語学習の過程で実際に該当の表記が出てくる度に、丁寧に指導して定着を図っていかなければならない。

なお、発展学習として、墨字のアルファベットの字形を取り扱う場合もある。日本語には、Tシャツ、Uターン、L字管のように、アルファベットの字形を知っていると意味が理解しやすくなる言葉がある。また、自分のイニシャルの字形を知りたい児童生徒も多いと思われる。あくまでアルファベットの点字表記が十分に定着していることが前提であるが、児童生徒の興味・関心に合わせて、活字体の大文字から順に紹介するとよい。

(2) 縮約の指導

前述のとおり、英語点字にはグレード1とグレード2という二つの表記 法があり、中学部第2学年から第3学年にかけて、グレード2(縮約)を 段階的に学ぶことになっている。具体的には、中学部英語第2学年の著作 教科書第1巻から、分冊ごとに7段階に分けてグレード2を導入していく。 著作教科書の各分冊の冒頭に、当該の巻で導入する縮約とその用法・用例 がまとめて示されている。

縮約は数が多く、その規則も煩雑であるため、生徒の中には「グレード1の方が簡単」、「点字使用者だけグレード2を余分に学ぶ理由が分からない」などと感じる人がいるかもしれない。しかし、グレード2は触読の効率性を高める非常に効果的な表記法である。グレード2の熟達者にとって、グレード1で書かれた英語点字は極めて読みにくいものである。実際、高等部英語科の点字教科書は原則としてグレード2で書かれており、また高校・大学等の入学試験における英語の科目や、英語関連の公的な検定試験などにおいても、グレード2が用いられるのが一般的である。そのため、グレード2の学習の初期の段階で生徒自らがその利便性に気付き、将来の見通しをもって意欲的に学習に取り組めるように支援する必要がある。

以下は、縮約を段階別に指導する際の主な留意事項である。

縮約語、頭字縮約、短形語などを覚えると、本来の綴りを忘れがちになる。それを補うための工夫としては、授業中にフルスペルを口頭で確認する、小テストで縮約とフルスペルの両方を書かせるなどが考えられる。

新しい縮約が出てきたら、同じ縮約を使う複数の単語を繰り返し指で読んで、点字の字形と音をマッチングしながら覚えていくことが有効である。例えば、末字縮約部の一つである ful 📑 🏗 が出てきた際には、useful, beautiful, wonderful, careful などの既習の単語をまとめてノートに書いたり読んだりするとよい。

前述のとおり、グレード 2 (縮約)は 7 段階に分けて順次導入することになっている。これにより、一部の縮約しか学んでいない時期に、一旦不完全な表記を用いなければいけない場合が度々ある。例えば、'your'や'about'は頻出語であるにも関わらず、強縮約を学ぶ第Ⅲ段階では、それぞれ ▮ ▮ ▮ ▮ と書き、「短形語 1」を学ぶ第Ⅳ段階に到達して初めて、完成形である ▮ ▮ と書き、「短形語 1」を学ぶ第Ⅳ段階に到達して初めて、完成形である まましたとき最優先しているために、やむを得ずこの

ような矛盾が生じてしまう。まず教師が縮約とその指導順序を適切に理解した上で、丁寧に指導しなければならない。なお、生徒の英語点字の熟達度や興味・関心等に応じて、完成形が別に存在することを予告したり、完成形の表記を先に教えたりすることが有効な場合もある。

(3) 縮約以外の表記の指導

UEB には、縮約以外にも丁寧な指導を要する表記がいくつかある。

例えば、小数点や数字の桁区切り、「%」や「℃」など、日本語点字とUEBで表記が異なるものがある。すなわち、日本語の文章の中で読み慣れていた記号類であっても、それが英語点字の中に出てくれば、UEBの規則に従って日本語点字とは異なる書き方で表現されるのである。また、大文字と小文字の書き分けやイタリック体の表し方、修飾符の使い方など、UEBには煩雑なルールも存在する。

通常は、英語の教科書の本文等に上記の記号類が出てきた時に初めて、その点字の表記と出会うことになる。しかし、入学試験における英語の科目や、英語関連の公的な検定試験などを受験する場合などには、UEBの記号類を意識的に学習しておいた方が望ましいこともある。なお、著作教科書の別冊資料編に UEB の表記法の概要がまとめて掲載されているので、それを活用して系統的に指導することもできる。

(4) 英語学習全般について

最後に、点字で学ぶ児童生徒に英語を指導する際の全般的な留意事項に ついていくつか述べる。

外国語教育においては、イラスト、写真、動画といった視覚教材を手掛かりとして、読む・聞く・話す等の活動を進めていく学習スタイルが一般的である。しかし、盲児童生徒にとって触図の読み取りは容易でなく、図が表しているものを即時的にイメージして活動の手掛かりとすることは難しい。そこで、補助教材として具体物や効果音付きの音声教材を用意したり、児童生徒自身が身体を動かす体験活動を取り入れたりするなどの工夫が求められる。また、外国語教育において日本語を介さない指導を重視するという考え方は重要であるが、盲児童生徒の場合は、必要に応じて日本語の音声や点字を用いることもやむを得ない。実際、著作教科書では、イラストや写真を日本語の単語や説明文に置き換える配慮を度々行っている。

リスニングテストでは、メモを取ったり選択肢を読んで解答を書いたりするのに時間がかかることを考慮して、解答時間を十分に保障しなければならない。また、イラストやグラフなど、視覚的な選択肢を点訳する際には、解答に必要な情報を精選し、複数の選択肢を効率的に比較できるように工夫することが重要である。

英語の学習では、辞書を引く活動が必須である。中学部英語の著作教科書には別冊の資料編が用意され、その中には、第1学年から第3学年で学ぶ語句を網羅した英和単語集が掲載されている。点字で学ぶ生徒には、まずこの単語集の使い方を指導し、自分で語句の意味等を調べる習慣を身に付けるように支援する。掲載語や用例がさらに多い点字の英和辞書もいくつか出版されているので、学校図書館でそれらに触れて、辞書の使い方についてより詳しく学習するとよい。また、点字ディスプレイ装置とともに使う電子辞書も、検索性や携帯性に優れた便利なツールである。このような電子機器を生徒が自由に活用できる環境が整い、主体的な学習活動の一助となることが期待される。